

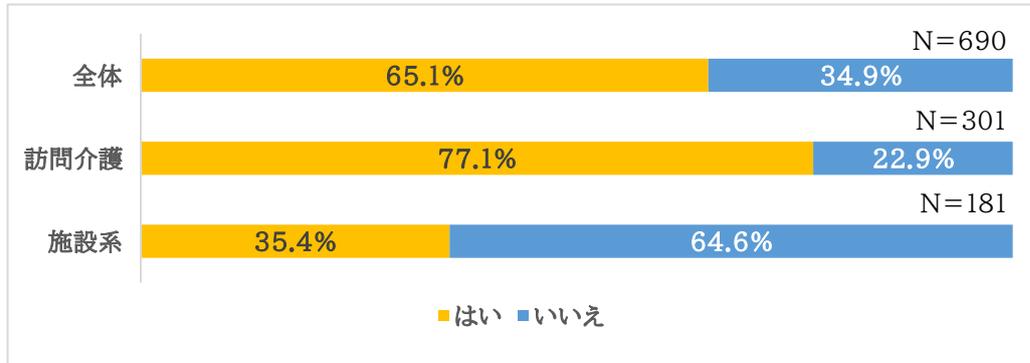
日本介護クラフトユニオン「新型コロナウイルスに関する緊急アンケート第3弾」結果報告

【実施時期】 2022年8月19日～23日

【調査方法】 FAXで事業所に送信し、FAXで返送

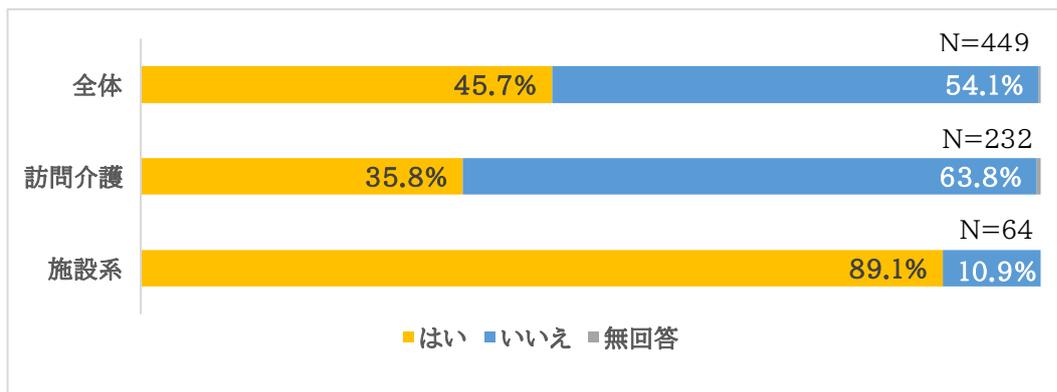
【回答数】 690件

① 本年7月～現在までにあなたの働いている事業所を利用しているご利用者でコロナに感染した方はいますか。



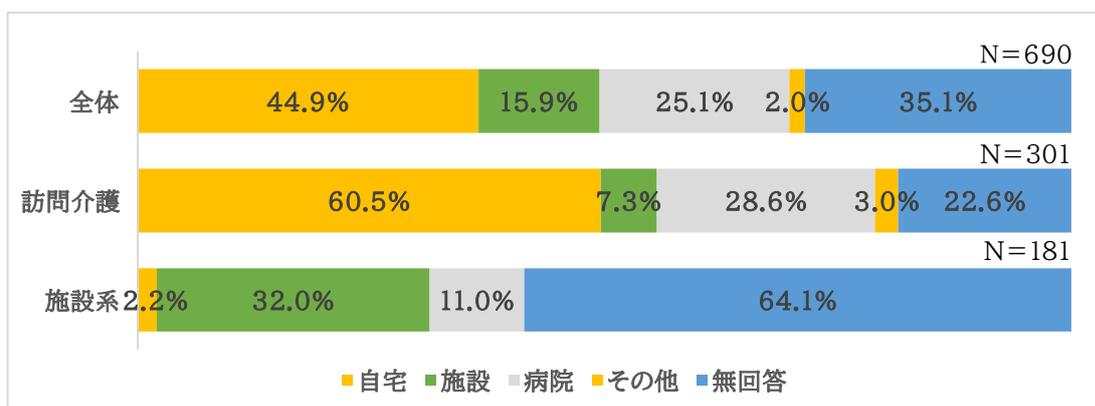
※全体では6割を超える事業所の利用者がコロナに感染した。
また、施設系よりも訪問介護事業所の方がコロナに感染した利用者が多い。

② 同時期に職員は感染しましたか。(①で「はい」と回答した事業所のみ抜粋)



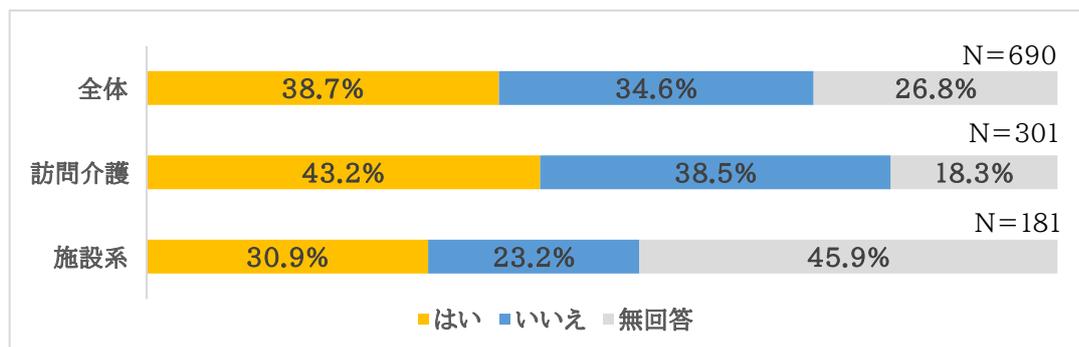
※利用者が感染した同時期に職員も感染した割合は、訪問介護事業所よりも施設系の方が高い。
全体では職員が同時期に感染していない事業所の方が若干多い。

③ 感染した利用者はどこで療養されましたか。(複数可)



※訪問介護事業所では自宅療養が多く、施設系では施設内療養が多い結果となり、
感染拡大により病院での療養が難しい状況が分かった。

④ ご利用者がコロナに感染したことで、事業所で起こった問題はありますか。



[起こった問題の内容(一部抜粋)]

● 訪問介護

1	基礎疾患のあるご利用者も感染していると入院、搬送してくれず在宅で看るしかなかった。
2	自宅療養されている方に訪問を続行するか否か
3	感染した利用者宅へ訪問しなくてはならず、職員への感染リスクがあるのに手当も出ない。防護服も足りてない。

● 施設系

1	16名のご入居者様、スタッフ4名が感染してしまいクラスターになり、入院することもできないためにとっても大変でした。
2	家族のいる職員も陽性者対応をしなければならず、リスクを抱えての勤務、感染対策で真夏にガウンやフェイスシールドの装着、全居室への弁当配膳などリスクや労力は昨年度と変わっていません。にも拘らず、蔓延防止措置が終了した為、新型コロナ感染症対策の特別手当は終了といわれ、金銭的な救済措置もなく、職員は肉体を酷使し、世間では行動制限のない夏休みと浮かれて、感染拡大が広がっている。 職員は肉体的、精神的にも疲弊していましたが、動ける自分たちが働かないと入居者様が生活できなくなると、みんなで励ましながら、涙を流しながら働いていました。仕方ないことですが、せめて行政は介護施設に補助金を出して働く職員へ金銭的な救済をしてほしいです。介護現場では安い給料で大変な思いをしてコロナ対応をしています。
3	認知症の利用者様が感染した為、隔離措置したが居室から出てきてしまうので、対応が大変だった。

以上